

松下北野元校長先生の 思い出、私と北辰会

23期 やまもと 山本 のぶよ 展代(旧姓 森本)

松下校長先生にはとても思い出があります。私の長男が北野の生徒であったたしか3年生になるころに退学したのです。大検で大学に行ったのですがこの時の校長先生が松下校長先生でした。

そのころ夫がまだ他高校の教師でしたので松下先生が心配して声を掛けてくださり、大学に入った時もお祝いのお手紙を下さいました。そのときの担任からは無かったですが先生はわざわざくださったのです。辞めても励ましてくださる本当に立派な先生で有難かったです。

北辰会との係わりで松下先生のご様子を知りました。

松下校長先生とは、息子が学校を辞めると言ったときの夫の対応とか思い出してなつかしかったです。勝手な思い出をかいてしまいました。また、お電話でお話と、御礼も伝えることが出来長年の胸のつかえも消えました。

私の定時制生活がまた、始まりました・・・北辰会を知り

2009年1月、或る人の病床で見舞っている3人の中の1人が話される話に「えっ」と思うことがありました。それはその人が北野定時制卒業生であったことでした。

私はそれまで何10年と同窓生に逢ったことが有りませんでした。その人は「北野定時制閉課

程」のことと「72年史」が出ることを新聞で読んだと話されたのです。それらの事もまったく知らなかったなのでその新聞と北辰会報を見せていただき、北辰会を知るきっかけとなりつながることができました。

それから私は事務局へ賛助金を送り、事務局の名簿に住所の記載を御願い致しました。

そして、2010年4月北辰会報と文集「はるけき流れ」が届きました。また、72年史、文集「ゆうべの星」を直ぐに注文いたし手にすることができました。はるけき流れに寄稿された方々に共感を抱き、代弁して下さっている気持です。北辰会が私の中で急速に近づきました。

北野高校は薬の選別で1日錠剤を見つめていた職場と人間関係の複雑さに多少苦しみ耐えていた日々のそんな私にとって救いの場でした。学校にすれば人間らしくふるまえ自然な高校生になれました。また、学校で生涯の伴侶となった人に出会いました。その夫が2003年亡くなり辛い思いと共に、北野定時制で培われた精神的な力をこれまでもまたこれからの残りの時をも活かして生きたいと願っています。生きる中で立ち往生する私に青春の故郷でありオアシスです。

北辰会は私にとって青春時代の仲間が集う大事な力と安らぎを戴く存在になりそうです。現在、皆様と楽しい登山、ハイキングなどで楽しんでいきます。北辰会の皆様に感謝しています。

